



この「くすの木」は、嘉応元年（1169）初代 猫尾城主源助能が
津江神社を創建した時、植栽されたと伝えられている。

樹齢約800余年 幹周り15m 樹高40m
県指定文化財となっている。

「津江神社の くすの木」

巨樹の会 由来と歩みの物語

矢部川のほとりに巨樹となる一粒の「種」は生まれた。その一粒の種は、やがて苗となり幹を作り青年期から熟年の月日を過ぎ、更に年輪を重ね、今この大空に聳え立つ巨樹となった。ここまで歳多の困難を乗り越えたこの樹の人生は登り坂と下り坂、時には真坂と向かい風・・・雨や嵐、強風の横風や雹や雷に耐え、また生まれ歩んだ幼少期の世は食料不足、満腹こそが喜びの時勢。しかしこの樹は若くして和魂洋才を持ち合わせていた。そんな中でこの樹は大地と太陽と水への弛まない感謝を忘れず、先祖と神様への念を怠たらず、自らの哲学を戒め正義を貫き通す信念が、枝を茂らせ 大樹と呼ばれるまでに至ったのかもしれない。

その後更なる巨樹に向かって大空へその輪を広げ、世の傘、人の傘と成っていく為、優しい心を持って日々、切磋琢磨し人々の尊敬の眼差しとなり、基本を忘れず大地に張った巨根と共に樹齢を刻み、いつしか巨樹の声々に我を教え慎みながら・・・やがていつかは・・・「主」も巨根に芽生える水を満ちた苔となるも：「主」が築いた歴史の扉に正義の精神を受け継いだ後世達で、後の世に栄え茂り、世の中のために成り続けるだろう。

【巨樹の会を命名のあらずじ・・・平成十八年三月十日】